

請願第1号

「京丹後市学校適正配置基本計画」を見直し市民の声をじゅうぶんに聴いて
議決されることを求める請願書

下記の者から別紙要旨による請願書を受理したから、議会の審議に付する。

記

請願者 京丹後市峰山町■■■■■
新日本婦人の会京都支部
支部長 田 中 雅 代

令和3年2月25日 提出


京丹後市議会議長 金 田 琮 仁

令和3年第2回京丹後市議会3月定例会
請願文書表

- 1 件名 「京丹後市学校適正配置基本計画」を見直し市民の声をじゅうぶんに聴いて議決されることを求める請願書
- 2 受理年月日 令和3年2月15日
- 3 受理番号 第1号
- 4 請願者 京丹後市峰山町■■■■■
新日本婦人の会京都支部
支部長 田中 雅代
- 5 紹介議員 京丹後市議会議員 橋本 まり子
- 6 請願の要旨等 別紙のとおり
- 7 付託委員会 文教厚生常任委員会



「京丹後市学校適正配置基本計画」を見直し
市民の声をじゅうぶんに聴いて議決されることを求め
る請願書

紹介議員 橋本まり子 

「京丹後市学校適正配置基本計画」を見直し

市民の声をじゅうぶんに聴いて議決されることを求める請願書

—請願趣旨—

私たち新日本婦人の会は、1962年創立。「平塚らいてふ」らを始めとし、女性と子どもの権利、生活向上、平和を願い活動している会です。

学校適正配置基本計画が地域や子どもたちの発達にとって与える影響は大きいと考えます。だからこそ、しっかりとプロセスを踏み、合理的な説明を経たうえで市民の活発な議論が不可欠だと考えます。10年前から、保育所、学校が次々と統廃合されました。その総括も議会としてしっかりと行なわれるべきです。

今回は小規模校が統合される計画になっていますが、小さな学校の良さはたくさんあります。学校の規模や複式学級ができるか否かで学校適正配置を判断するのではなく、教育の面から現場の教職員や保護者の声を市民の代表である議会はしっかりと聴くべきです。また学校の在り方は町づくり政策の一貫として重く受け止め、地域住民の声もしっかり聴いて丁寧に審議して下さい。

—請願項目—

- ① 「京丹後市学校適正配置基本計画」案を拙速に審議・採決しないで下さい。
- ② 計画を議決してから住民に説明するのではなく、議決までに地域住民、現場の教職員、保護者の声を十分に聴いて下さい。
- ③ 前計画の際に「複式学級を避ける」という判断基準が示されていますが、10年を経て、ICTの導入や、少人数学級の動きなども含め教育をめぐる情勢も変化し、一方では移住定住などの政策も進んできて地域に関する考え方や、田舎でのびのびと子育てしたいという思いをもって丹後に移住してこられる方も増えてきている中、議会として判断基準に複式学級の項目が必要なのか、再検討をお願いしたい。

地方自治法第124条の規定により、上記の通り請願書を提出します。

2021年2月15日

京丹後市議会議長 金田 琮仁 様

新日本婦人の会京丹後支部

支部長 田中 雅代

京丹後市峰山町

事務局長 松見 よう子

京丹後市峰山町